

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成22年6月発行 NO:25号



ギーマ

「西表島の植物誌」等を森林環境教育の教材として配布

4月12日(月)、14日(水)に、西表島の小・中学校等を訪問して「西表島の植物誌」及び「西表島における5年間の活動報告」を配布しました。

特に「西表島の植物誌」は、木本類、草本類、シダ植物、街中で見られる植物等の画像で掲載し、また、小学生でも読めるように漢字には全てふりがなを付けています。

当センターの業務には森林環境教育の支援があり、「西表島の植物誌」もこの目的を達成するための教材として作成しました。

これからも西表島の植物誌をより充実させるため、皆様からの情報を頂きながら花や実を撮影しますのでご協力をお願いします。



西表小中学校(上里校長)



大原小学校にて



白浜小学校にて



古見小学校にて



上原小学校にて



船浦中学校にて



大原中学校にて

「西表島の植物誌」の訂正のお願い

- 136頁:「バナナ」(誤り) → 「サオトメショウ」(正解)
- 参考資料11頁スタジイの花序:「尾状花序」(誤り) → 「穂状花序」(正解)

仲間川保全利用協定締結者が行うモニタリング調査を支援

4月27日(火)、仲間川地区保全利用協定の締結事業者が行う①砂泥の移動、②ヒルギ類の幼木の成長についてのモニタリング調査の支援を行いました。

砂泥の移動では、過去半年間の推移を見ると5地点のうち上流の3地点に大きな変動は見られないものの、下流の2地点ではわずかに砂泥の流出が観測されました。

幼木の調査地においては、総本数に変化はなく、樹高成長は3ヶ月前と比較して平均で1.6cmの増加、葉数調査では9本中6本が前回より少なくなっていました。これまでの調査でも4月は着葉数が減少している個体が多く、この時期に落葉が行われているものと考えられます。

3月25日、大原公民館に仲間川保全利用協定モニタリング検証会が開催され、当センターは、これまで実施してきたモニタリング(砂泥移動、幼木の成長)以外に、仲間川マングローブ林及び巨樹巨木サキシマスオウノキの調査報告を行いました。



「砂泥の移動」の調査

漂流・漂着ゴミの実態調査(4・5月期)

漂流・漂着ゴミの実態調査を4月1日(木)、5月7日(金)に実施しました。



4月撮影



5月撮影

4月と5月の調査を比較すると、南風見田の調査地では、4月には2本立ちだった枯立木が、今回の調査では1本が無くなり1本立ちになっていました。

撮影されている樹木は、昨年と比較して成長していることがわかりますが、その一方で、ヤエヤマヒルギやオヒルギ等には、漁具や浮き球等の色々な漂着ゴミが絡みつき改善の見込みはなさそうです。

ガイド講習会(補習)を実施しました

2月18日(木)のガイド講習会に出席できなかった方を対象に、4月6日(火)石垣地方合同庁舎内の事務所にて、ガイド講習会の補習を実施しました。今回のガイド講習会の補習により平成22年度の木道利用希望者は27名となりました。これからも受講希望者があればその都度補習を実施して希望に応えたいと考えています。

なお、受講者には、木道を活用して森林環境教育及び希少野生動植物のモニタリングを実施して頂くことになります。

平成22年4月、5月期におけるヒナイ川・西田川の利用状況

ヒナイ川の利用状況調査を4月19日(月)、5月20日(木)に、西田川は4月21日(水)にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、4月期はカヌーツアーが12組(ガイド含め50名)、レンタルツアーが2組(5名)、計14組の55名、5月期はカヌーツアーが9組(ガイド含め42名)、レンタルツアーが3組(9名)、計12組の51名でした。

一方、西田川では、今年一番の暑さにもかかわらず利用者は少なく、北海道からのカヌーツアー1組(ガイド含め3名)だけでした。

※ お願い：当センターでは、本年度も昨年度に引き続き、ヒナイ川(毎月1回)及び西田川(2ヶ月に1回)において利用状況調査を実施しますので調査に当たっては皆様方のご協力の程よろしくお願いいたします。



ヒナイ川 (4月)



西田川 (サングラの滝)



ヒナイ川 (5月)

船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施

4月14日(水)、船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施しました。今回は地盤高の調査を実施しましたが、地盤高に大きな変化は見受けられませんでした。また、35株あるニッパヤシの内、1株からは特に大きくなった種子が確認できました。

この日は、ウトラ川上流にあるオヒルギの巨木の樹勢の確認を併せて行いました。途中、ウトラ炭坑跡地に沖縄森林管理署が新たに設置した木道では、修学旅行生が西表島の自然や歴史等について学んでいました。



地盤高の調査



木道を利用する修学旅行生



種子の流出防止

西表島の樹木

ヤエヤマヤマボウシ

学名：Cornus kousa var. yaeyamensis.

科名：ミズキ科

属名：ヤマボウシ属



分 布

ヤマボウシは国内では本州以南から屋久島まで分布し、沖縄県内では石垣島と西表島の山地に生育しています。

形 態

樹高は、5～10m程度で落葉性の高木です。

葉は、枝先に対生させ、葉の縁は波打っています。

花は初めは淡い緑色、その後白くなります。まれに紅色があると言われています。

実は赤く熟し食べられます。

漢字では「山法師」と書き、花を僧の頭に見立てたようです。

転入者のお知らせ

平成22年4月1日付けで転入しました。よろしくお願いします。

自然再生指導官 坂梨 豪俊 (担当：森林環境教育)

前任地：長崎森林管理署 (長崎県諫早市) 総務課長



今年度から、こちらでお世話になることになりました。担当である自然環境教育等の業務については正直な話、沖縄には以前勤務していましたが植生等には詳しくありません。早く先生方に近づけるよう (今は小学生) にハブ、蜂、熱中症等に気をつけながら精進し、小中学校へ自然環境教育の支援が出来たらと思っています。

今後、関係者の方々のご協力を頂きながら取り組んで参りたいと考えていますのでよろしくお願いします。

自然再生指導官 築川 伸一 (担当：自然再生)

前任地：九州森林管理局 (熊本市) 計画部 計画課 経営計画第3係長



今回で3つめの離島 (奄美大島、種子島) 勤務となりました。

西表島の特徴は、大きな河川 (豊富な水量) が幾つもあること、貴重な動植物が多いこと、そして日本最大級のマングローブ林を有するなど調和のとれた亜熱帯の自然環境に恵まれているところです。

自然再生が担当ですので、各種のモニタリング調査が主となりますが、西表島におけるこれまでの取組を継承しつつ、皆様の協力を得ながら取り組んで参りますのでよろしくお願いします。

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市宇登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>